

ユニバーサルサービスの将来像について

2008年6月9日
株式会社ウィルコム

ユニバーサルサービスの範囲について

■ 2010年代初頭までのユニバーサル制度について

- ・ 携帯電話が伸びているが、エリアの問題等で全国あまねくまでには至っていない。
- ・ ブロードバンドゼロ地域の施策は進むが、実質的な全世帯への普及までは至っていない。
- ・ 減少傾向とはいえ、加入電話は依然過半数の契約者を維持している。

現状の加入電話、公衆電話、緊急通報を継続

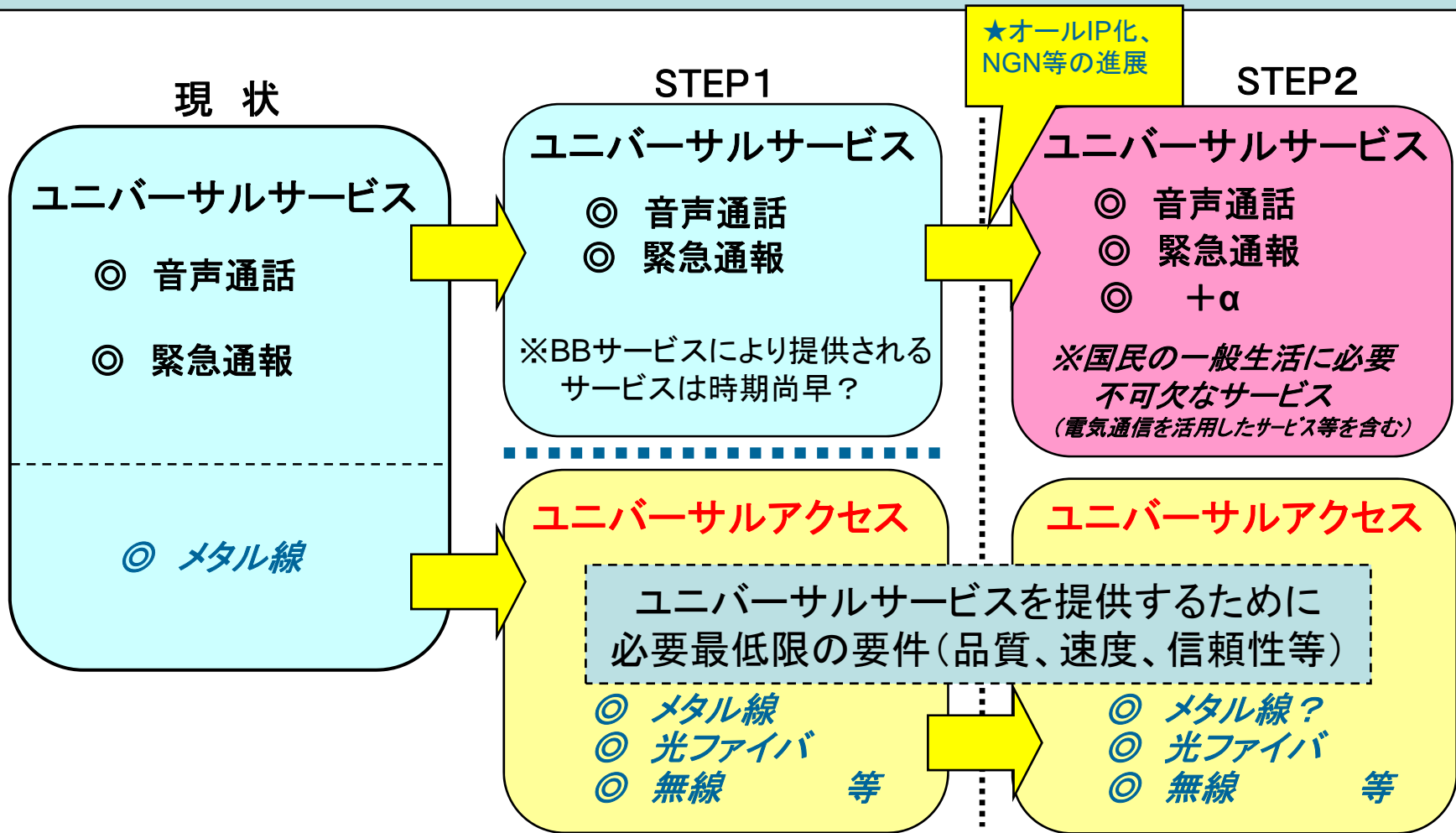
■ ユニバーサルアクセスの検討

- ・ 現行ユニバーサルサービスを支持するとはいえ、NGN、加入電話の減少等、明らかに環境が変わってきている。
- ・ 現行の制度をこのまま継続するとなると、負担費用の増加は避けられない状況。

環境変化に伴い、早急にユニバーサルサービス制度について見直しを行うべき。 → ユニバーサルアクセスへの移行を検討すべき。

ユニバーサルアクセスの導入について

◆ユニバーサルサービスの制度見直しにおいては、技術の進展等を加味する必要があるが、第一に行なうべきは、ユニバーサルアクセスの考え方を導入することと考える。



2010年代初頭までコストの算定等について

■ コストの算定方法について

- ・ 現行の制度を2010年代初頭まで継続することを前提とした場合、コスト安定方法についても現行の方法を適用すべきと考えます。
なお、提案されている加入電話からIP電話への移行の数字を補填対象額の算定に盛り込む方法は、現行制度を維持してコストを回収するためのひとつの方法と考えます。
- ・ 2010年代初頭以降については、先に触れたように、ユニバーサルアクセス等、制度の見直しを行うべきと考えます。

■ マイグレーションについて

- ・ 利用されないメタル線に対して維持費等のコストを費やすことは効率的ではありません。マイグレーションを進めることにより不要なメタル線の撤去ができコスト削減が望めるのであれば、NGN(フルIP網化)へのマイグレーションを積極的に促進すべきと考えます。

その他

■ 2010年代初頭以降の制度を検討するにあたって

- ・ 頻繁に制度が変更になることは事業の継続性の観点からも好ましくないため、長期的なスパンで大枠を決め、微調整を見直しで行うようにすべきと考えます。
- ・ なお、「ユニバーサルサービス制度の将来像に関する研究会」においても、意見を述べさせていただいたとおり、ユニバーサルアクセスの考え方以外にも、適格電気通信事業者の指定の要件の在り方(指定の範囲、1地域複数事業者の参入を可とするカリバースオークション等)についても議論していくべきと考えます。

